

ほほえみ 第81号

発行日 2009年9月30日



設立 31 周年を迎えたプラティープ財団

8月31日、プラティープ財団は設立31周年を迎えました。当日は僧侶をお招きしての仏教式典を実施。財団副理事長、理事、各地区の住民委員長と代表、高齢者らが参加しました。

当財団では設立以来、プラティープ理事長をはじめ、それぞれのプロジェクトを担当するスタッフが協力し合い、世界同時不況やタイの政情不安などの影響を強く受けながらも、地域の子どもや住民に対する支援活動に取り組んできました。

これからも、地域の子どもたちに対する教育支援事業に力を入れていきたいと考えております。

ご支援者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。そして、今後ともよろしく願い申し上げます。



2009年度『プラティープ・ウンソンタム泰賞』 薬物問題に取り組む高僧が受賞



タイ社会や地域開発支援のために設立されたタイ証券取引所財団は、年に1度、有意義な社会貢献活動をしてきたNGOや個人を表彰しています。財団の選考委員会によって、(1) 教育部門 (2) 都市開発部門 (3) 地方開発部門 (4) 音楽奨励部門 (5) スポーツ奨励部門 (6) 図書館開発部門—の6分野でそれぞれ個人または団体が選ばれますが、このうち、都市開発部門はプラティープ財団が選考を担当しています。そして、社会活動家であるプラティープ理事長の業績を称え、都市開発部門賞は「プラティープ・ウンソンタム泰賞」と名付けられています。

第3回目となる今年は、バンコク都内クロントイ地区で長年、薬物撲滅などの活動に取り組んできたサパーン寺住職のソーポンパタナーヌシット師(54)が選ばれ、8月27日、タイ証券取引所で表彰式が行われました。

ソーポンパタナーヌシット師は、1986年からサパーン寺を中心にして薬物問題に取り組んでいます。師は、薬物撲滅ネットワークを組織するとともに、薬物依存患者の更生指導も推進。そして、更生者がサパーン寺で師の活動を手伝うまでになっています。

タイ証券取引所のパタリヤ・ベンチャポンチャイ所長も「実際に現地を訪れて、20年以上にわたり、寺院が覚せい剤撲滅の基地となっていることがわかった」と話し、師の活動を高く評価していました。

また、去年は、寺院内に薬物中毒者更生センターが設置され、ソーポンパタナーヌシット師がその責任者に就任しました。師は受賞の挨拶のなかで、「どんな

港湾局警察署副署長 子どもの育て方について講演

9月5日、教育里親事業部では、保護者を対象とした「子どもの育て方」をテーマにした講演会を行いました。

当日は、港湾局警察署からソムキャット副署長を招き、非行に走りやすい世代の子との接し方、敏感な年頃の子との会話のコツ、薬物に手を染めない方法などについて講演していただきました。なお、当日は約100人の保護者らが参加しました。

講演後、保護者からは多くの質問や意見が出ましたが、皆、薬物蔓延を危惧しており、取り締まりや啓蒙キャンペーンなどの推進を警察側に求めていました。



に時間がかかろうと、麻薬や覚せい剤を撲滅しなくてはならない。そのためには、地域の結びつき、家庭内の結びつきを強めることが必要」と訴えました。

プラティープ理事長 「エルセラーン1%クラブ」を訪問

8月29日と30日、プラティープ理事長と夫の秦辰也・近畿大学教授は、当財団に対する助成金支援を行っている「エルセラーン1%クラブ」の活動報告会に出席しました。今年実施している主な事業は、「生き直しの学校」での農園事業、温かな家庭を築く事業、難聴児教室推進事業、モンテッソリー教育事業などです。



当財団では、2006年末よりエルセラーン1%クラブからご支援を受けています。生き直しの学校で行っているアブラヤシ農園では、この助成金で灌漑用水路を設置しましたが、そのおかげでアブラヤシが順調に成長するようになりました。

また、当財団の幼稚園児は、モンテッソリー教育の指導を受けるようになってから、思考力と集中力がアップしました。今では、スラム地区10カ所の幼稚園がモンテッソリー教育を取り入れています。

当財団の数々の事業にご支援いただいている石橋社長様およびエルセラーン1%クラブの皆様にご心より御礼申し上げます。

20周年迎えたタイ・セブンイレブン プラティープ財団幼稚園で記念パーティー

コンビニエンスストアの草分け、『セブンイレブン』がタイでチェーン展開を開始してから20年が過ぎましたが、20周年を記念して、経営会社である「CP オール」の副社長、従業員、そして芸能人らが9月10日、当財団の幼稚園を訪れました。

たくさんの食べ物やプレゼントを受けとった園児は、お腹は満腹、心も満足。当日は、当幼稚園の園児のほか、クルーノイの家財団やトゥンモハマークの家



センターから約100人の子どもたちが参加。食事のほか、ゲームや歌、抽選会などを楽しみました。

セブンイレブン関係者に深く感謝申し上げますとともに、20周年をお祝い申し上げます。

4

カナダ人ご夫妻ら スラムの子どもに大型遊具を贈呈

カナダ人のコラシティご夫妻とその友人らが8月23日、リムクロンワットサパーン地区を訪れ、子どもたちに大型遊具を贈呈しました。

贈呈式は、在タイ・カナダ大使館のステューブン参事官を主賓に迎え、プラティープ理事長、クロントイ区役所副所長、住民委員長、地区の消防隊員、子どもたちなど約100人が出席しました。



当財団では設立30周年を記念してスラム地区の30カ所に遊具を設置することを決定。そこで、事業支援者を募るとともに、当財団消防ボランティア隊員30人が職業訓練を兼ねて遊具製作を始めました。今ではボランティア隊員の製作技術はかなり向上しています。

最初の頃に作った遊具はプラティープ幼稚園の園児が試用しましたが、園児の筋肉アップにも貢献したことから、他への波及が期待されています。

贈呈式後、子どもは丈夫な新品遊具で楽しそうに遊んでいました。また、主婦グループはエアロビクスを、消防隊員は消火活動のデモンストレーションを披露しました。今回寄贈された遊具は、地域の子どもたちにとって何よりの贈り物になったようです。



贈呈式のためにカナダから来タイされたコラシティご夫妻に心より厚く御礼申し上げます。



70ライ地区にて火災発生 被災学童に緊急教育支援金

8月18日午後4時ごろ、当財団事務所に近い70ライ地区ソイ15で火災が発生。当財団の消防隊が出動して消火活動を行いました。

この日は豪風雨のため、電柱が倒れて停電になりましたが、その直後に火災が発生。火の回りは速く、3軒が全焼

し、8軒が被害を受けました。

出火の原因について警察が調べたところ、調理中のガスの不始末であることがわかりました。当財団に消防隊が設置されたのは15年前。それ以前は、古材やダンボールで建てられた家屋が密集しているスラム地区で火災が発生すると、一瞬にして火が回ってしまいました。バンコク都の消防自動車は現場近くに到着しても、車は狭い路地へ入れず、そのため、消火活動に手間取り、多くの家が焼失することになりました。

今回、当財団では被災した住民に食料品や衣料品を配布。さらに学童には緊急教育支援金を支給しました。

スラム出身の女子学生 名門チュラロンコン大学優等賞に輝く

「厳しい社会で生き抜いていくのに絶対必要なのは教育です」と微笑むポーティップ・パーンインさん（ニックネームはレック、23歳）は先日、チュラロンコン大学薬学部優等賞を獲得しました。

彼女は在学中、いつも自分と闘っていました。そして、教育の必要性を訴えてきました。彼女はクロントイの70ライ地区の出身。学校にいかず、薬物におぼれる若者が多い劣悪な環境で暮らしながら、自分の将来のため、猛勉強しました。

彼女の家族は、ラムカムヘン地区の包装会社で働く父親ペウさん（61歳）、持病があり働けない母親ブンサーンさん（63歳）、そして、貧困のため中卒で働いている兄姉の5人です。

彼女も兄姉と同様に「進学は無理」とあきらめていましたが、当財団の教育奨学金を受けて高校へ進学。ワットタートーン高校では3.94（満点は4）というすばらしい成績を残し、タイ最難関のチュラロンコン大学薬学部に入學しました。



5



しかし、スラム地区からの通学は苦労の連続でした。大雨が降ると道路は洪水。スラムの治安はけっしていいとはいえず、帰宅が遅くなる時は、父親にスラムの入り口で待ってもらったといいます。

それでも、一分一秒を惜しんで勉強し、理解できないところはすぐに教授に質問、帰宅後はひたすら復習するなど、大学卒業を目指して頑張りました。その結果、3.86という好成绩をおさめ、薬学部優等賞を獲得したのです。彼女はスラムという劣悪な環境にありながら、学業で成功したことをとても喜んでいます。

在学中は、自分がスラム出身であることを隠しませんでした。そして、クラスメートも友好的に接してくれたといいます。

彼女は大学の奨学金を受け、博士課程まで進むことになっています。現在、修士課程で学んでいますが、土曜日と日曜日にはラムカムヘン地区のクリニックで仕事をして家計を助けています。

博士課程修了後は、教授もしくは研究者を目指すつもりです。そして、何よりも家族想いの彼女は、立ち退きを心配せずに安心して暮らせるマイホームを建てることを夢見ています。

スラム住民でも、教育を受け社会的に認められれば、差別を受けることはありません。また、職業の選択肢も広がります。教育奨学金を受けるチャンスを得た彼女はそれを逃すことなく、自らの手で幸運を勝ち取ったのです。

善意の歯科医 スラム地区で検診活動

7月27日と28日、KDC-SAS（神奈川歯科大学南東アジア支援団）の歯科医5人がパタナー共同体小学校の学童（6500人）を対象として、歯科検診を行いました。パタナー共同体小学



校の前身は、プラティープ理事長が1968年に開校した「一デーバーツ学校」。そして、10年後に政府に移管され、現在のパタナー共同体小学校となりました。

今回の検診では、小学校低学年の60%が虫歯を患っていることがわかりました。虫歯の原因としては、(1) スナック菓子や清涼飲料水を頻繁に口にしていること (2) 歯磨きを怠っていることなどがあります。さらに、保護者が経済的な問題などから自分の子どもの世話をする余裕がないことも無視できません。

そのため、今回の歯科検診は、学童が正しい歯磨きの方法や虫歯予防など学ぶよい機会となりました。KDC-SASの歯科医による検診活動は、今後もスラム地区の幼稚園や小学校の子どもたち約3000人を対象に続けられる予定です。

「先生、みんな私のこと好きかな？」 愛情に飢えるベルちゃん

「ポーン先生、みんな私のこと好きかな？ ねえ、ポーン先生、プラティープ先生はどうかなあ？」



これは、笑顔の可愛いベルちゃん（14歳）が頻繁に口にする言葉です。彼女は、「生き直しの学校」で一緒に暮らす教師や友だちが自分のことを本当に愛してくれているのかどうかを知りたいのです。

ベルちゃん（本名はベンチャパン・ランサードトーンちゃん）は、今年1月にパトゥムタニ県の少女教護施設の職員に連れられて入所しました。彼女は生まれてから、両親、兄、祖父母と暮らしてきましたが、とても複雑な家庭環境に育ちました。祖母が死亡し、祖父が24歳の女性と再婚すると、一家は地方へ引っ越し。

しかし、農業で生計を立てるようになってまもなく、父親が癌で死亡しました。

その後、母親が再婚、9歳になったばかりの彼女は知的障害を持つ叔母の元に預けられましたが、叔母の感情が激しく、頻繁に虐待を受けるようになりました。彼女は耐えられなくなり、母親の所在を探すために家出を決めました。やっと探し当てた母親のところでは、義父の実妻が母親を虐めている状況でした。その後、母親と彼女は逃げるようにしてアパート住まいを始めました。

しかし、やがて義父が母親を追ってきて同居するようになったことから、彼女は我慢を強いられました。その後、義父が母親と彼女を連れて地方へ向かっている時に交通事故に遭い、母親が即死、養父と彼女が軽傷を負ってしまいました。母親の即死を目の当たりにした彼女は、自分の人生に完全につまずいてしまいました。「どうしたらいいの？ 一人ぼっちになってしまった！」とつぶやき、目を閉じればトラウマとなって母親の即死状態ばかりが脳裏をかすめるのでした。その後、彼女は祖父のところに戻りましたが、義祖母から虐待される日々が続きました。再び耐えられなくなり、家出をし、友だちの家での居候からボーイフレンドの家へと移り、麻薬を常用し始め、最終的には麻薬欲しさに売春をするようになりました。

2007年12月29日、薬物所持などで補導され、パトゥムタニ県の少女教護施設で1年間過ごすことになりました。「生き直しの学校」では現在、少年少女の教護施設を出所した子たちを受け入れており、これまでに両校（チュンポーン校、カンチャナブリ校）で13人が入所しました。

カンチャナブリ校に初めてやって来た時、彼女は誰とも口をきかず、人を信用できず、盗みばかりしていました。ただ、彼女の盗みは、自分と親しくしてくれる子を試すことが目的だったようです。そのため、自分の盗みを怒らない人は自分を愛してくれている人、と思い込んでいたのです。

生き直しの学校で暮らすようになり数日が経ちましたが、職員は彼女への接し方に悩み、そのため、年上の子どもたちが一緒に生活することの大切さを少しずつ指導していくことにしました。



幸いに、彼女はモノを書くことや話すことが大好きなため、彼女の将来を考えた特別指導をしていく予定です。

彼女のような子どもに対する更生指導は、時間との闘いになりますが、当財団ではどんな子にも対してもチャンスを与えていきたいと考えています。



おはなしキャラバン 難民キャンプでも巡回公演

7

人形劇と読み聞かせを中心とする「おはなしキャラバン」活動は、1991年にスタートしました。

その後、専属職員とボランティアが協力して、人形を製作し、劇の練習を積み重ねてきました。



キャラバン隊メンバーは人形劇だけでなく、子どもたちと一緒にゲームや歌などのレクリエーションを楽しみます。そして、双方が打ち解けてきた頃、生活に密着した物語の読み聞かせを行い、読書の大切さを訴えます。これによって、子どもたちの視野が広がり、豊富な知識が身につくのです。

5月30日から6月5日まで、キャラバン隊は東北部ナコンラチャシマ県スンサーン郡とボアヤイ郡の9校で巡回公演を行い、幼稚園児から中学生まで約2500人の前で人形劇を行い、読書と呼びかけました。

一行は、東北部のムクダハン県も訪れ、キヤン校を会場にして、教師80人を対象にしたエプロンシアターのワークショップを実施。参加した教師らは、エプロンシアターづくりに大変興味を持ってくれました。

さらに、キャラバン隊はミャンマー国境沿いのターク県メーソット郡にあるシンシア女医のクリニックを訪れました。ミャンマー人のシンシア女医は、10年前にミャンマー難民キャンプ地にクリニックを開設。その後、国内外の支援団体から援助を受け、国境周辺の山岳地帯で生活する5000人余りの難民の健康管理と治療を行っています。



ドゥアン・プラティープ財団

The Duang Prateep Foundation

Lock6, Art-Narong Road, Klong Toey

Bangkok 10110 Thailand

Tel : 001-66-(0)-2249-3553,(0)-2249-4880

Fax : 001-66-(0)-2249-5254

E-mail : dpffound@ksc.th.com

ホームページ : <http://jp.dpf.or.th>

銀行口座 : 三井住友銀行バンコク支店

口座名 : The Duang Prateep Foundation

口座番号 : 2 0 4 1 1 5 9 4 2 1

- * 送金の際はご住所、お名前、ご送金の目的等を当財団国際部までご連絡賜りますようお願い申し上げます。

キャラバン隊は、10カ所のキャンプで人形劇公演を開催。難民キャンプでは初めての試みでしたが、タイ語の分からない子どもにも、大人にも楽しんでもらえたようです。そして、山岳地帯にある難民キャンプ各地を巡回し、子どもたちの喜ぶ顔にふれて疲れを忘れ、多くのエネルギーをもらって戻って来ました。タイ国内の子どもたちのため、キャラバン車はこれからも走り続けます。



To:

評価された津波復興事業孤児センター
パンガー県教育局、「教育貢献賞」を授与

7月9日、当財団の津波復興事業に対してパンガー県教育局から「教育貢献賞」が贈られました。パンガー県のイヤムスリヤー知事を主賓に招いた今回の授与式では、同県内で活躍する団体や個人が表彰されました。当財団からは事業責任者のロジャー代表と職員が出席しました。

2004年12月26日、スマトラ沖地震発生後、南タイ6県の広範囲な地域を襲った大津波は多くの命を奪いました。当財団では津波発生の直後、現地入りし、被災者の救援、心のケアを行いました。

被災者の恐怖感を癒す心理療法をはじめ、おもちゃ図書館、バティック（ろうけつ染め）製作、教育奨学金制度、漁業用具支援、おはなしキャラバンなど、これまでに数々の活動に取り組んできました。



現在、孤児支援センター「バーンターンナムチャイ」には、3歳から17歳までの男女65人が暮らしています。今回の受賞は、4年余りにわたり津波被災者のため、日夜、誠心誠意働いてきた職員にとって、ひとつの「勲章」となりました。パンガー県教育局関係者にお礼を申し上げます。

「生き直しの学校」カンチャナブリ校 恒例「ベーカリー」ワークショップ開催

「生き直しの学校」カンチャナブリ校では、11年前から奥井彰・彩里先生ご夫妻を招き、年に2回のペースで「ベーカリー」ワークショップを行っています。

これは、子どもたちがベーカリールームに集まり、ケーキ、クッキー、ドーナツ、菓子パン、ジャムづくりなど懇切丁寧な指導を受けるというものです。材料は学校敷地内にある果物（パイナップル、バナナ、マンゴー、マンゴスチン）や薬草を利用。このため、節約できるのはもちろんのこと、健康的なパンを食べることができます。レッスン毎に子どもたちの技術は上達しており、訪問客のおやつ作りにも役立っています。

当財団では、子どもたちの中から将来プロのお菓子職人が出ることを願っています。

